

平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人九州工業大学

1 全体評価

九州工業大学は、確固としたもの創り技術を有する志の高い高度技術者の養成を基本的な目標とし、教育・研究の高度化を図り、今後も「知と文化情報発信拠点」であり続けるとともに、「知の源泉」として地域社会の要請に応え、次世代産業の創出・育成に貢献する、個性豊かな工学系大学を目指している。第2期中期目標期間においては、研究と社会貢献を礎として、グローバル・エンジニアを養成すること等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、社会が求める技術者のグローバル・コンピテンシー（GCE：Global Competency for Engineer）の策定・可視化とGCE 養成のための教育プログラムの構築を引き続き推進するとともに、海外派遣プログラムを実施しているほか、様々な教育プログラムのルーブリックの策定や学修自己評価システムの開発を行うなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

第2期中期目標期間においては、海外教育研究拠点マレーシア・スーパーサテライトキャンパス（MSSC）の設置によるグローバル人材育成を目指した「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を定め、積極的に取り組んでいる。

平成27年度は、学生の海外派遣や留学生の受入れによる教育力向上等を図るため、MSSCを活用した、海外インターンシップ、グローバル・コンピテンシー獲得のための海外協定短期派遣プログラム、グリーンイノベーションリーダー育成プログラム等の各種事業及びプトラ大学（マレーシア）との合同シンポジウムや交換留学制度を実施し、学生をマレーシアに131名派遣している。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

イノベーション推進機構を改組し、戦略的研究活動を重点支援する「戦略的研究推進領域」を設置するとともに産学連携推進センターと「リサーチ・アドミニストレーション・センター」を「産学連携・URA領域」に統合・改編し、研究支援を一層強化するための体制を構築している。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 入試改革に向けた組織整備

高大接続を踏まえた大学入学者選抜の改革を実行するため、学長直轄の「アドミッション・オフィス」を新たに設置し、入学者の成績等の追跡調査を実施し入試改革の検討材料を収集するほか、受験者の負担軽減及び出願受付の費用削減を図るため、平成29年度入試におけるインターネット出願制度を構築している。

○ 教育研究支援体制の整備

技術職員が学科・講座を越えて、学部や大学全体の支援業務に関わる仕組みを構築するため、技術職員の学科・講座ごとの配置を改め、一元的に所属する技術部を設置している。このことにより技術職員の指導育成・スキルアップ等を組織的に実施し、部局からの支援依頼に効率的に対応できる体制が整備されている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 小中高生に対する科学教育支援

航空科学技術に興味を持つ青少年を育成する「大学と地域で協働する未来の航空科学技術フロンティア人材育成」プログラムにおいて、航空の歴史や模型飛行機製作、ドローン等の開発や制御ソフトについて学ぶための「航空クラブ」と「飛行ロボットクラブ」を公的教育機関や航空関連企業等の連携機関に設立するための準備と、各機関における3Dプリンタ等の各種設備の整備、ハードウェアの設計・開発と、それぞれの教材開発を行っている。